



世界をつなぐ人になる。

国際関係学部

F a c u l t y o f I n t e r n a t i o n a l R e l a t i o n s



ビジネスと国際政治の関係を現地で学び実感した 複眼的・多角的な思考の大切さ

調査活動にベトナムとマレーシアへ

鈴井: 2人は、3年次の夏休みにベトナムとマレーシアに行かれたのですね。何がきっかけになったのですか？

今井: 以前から大学で学んだことを海外で確かめたいと考えていました。幸運にも企業の奨学金を受けることができ、川内君と2人で約3週間、現地調査をしてきました。

鈴井: 専門教育科目で学んだ国際関係の知識を海外で検証する…素晴らしいですね。どんな調査をしたの？

川内: 東南アジアで事業展開をする日系企業における聞き取り調査と、日本の商品に関する調査をホーチミンとクアラルンプールで行いました。

今井: 授業やゼミで、日本経済の将来はアジアの発展とともにあると学んでいたため、今回の調査では日本企業が東南アジアで事業展開するうえで何が必要かを確認し、また現地の人々が、日本の商品にどのような印象を持っているかを知ること大きな目的でした。特にマレーシアでは、ムスリム(イスラム教徒)が人口の約3分の2を占めていますので、日本企業の対応に関心がありました。

川内: 調査にあたっては、その国の文化的背景、どのような国家から支配や影響を受けてきたのかといった歴史、現在の政治制度や政治情勢についても知っておく必要があり、2か国については国際関係学で学んできたことを活かして事前学習に時間を割きました。特にベトナムは、政治体制が社会主義ですが、経済活動が自由で活発、近年の経済成

幅広く学ぶなかで身につけられる「視点」。

長は目覚ましく、貿易も盛んで、その理由が知りたいと思いました。

文化やビジネスのつながりを体感

鈴井: 訪問する国を複眼的・多角的に捉えたいうえで、問題関心を持って調査に臨んだわけですね。2人とも初めての国での初めての調査、予定通り進みましたか？

今井: 異文化交流の難しさを実感したほか、ムスリムの多いマレーシアではイスラム教の戒律で合法とされる「ハラール」に対応したサービスや商品の開発が不可欠なこと、つまりビジネスにも文化・宗教的要素が必要なおことがよくわかりました。日本に来るムスリム観光客にも、もっと積極的な対応が可能ではないかと思いました。

川内: ベトナムの製造業には世界から投資が集まることを目の当たりにしました。調査中、実はその多くが中国からの移転と知り、事前に調べてきた米中貿易戦争の影響と結びつきました。他方で、アメリカ流のデジタル関連ビジネスが盛んなことを理解し、日本企業もネットを活用したビジネス展開が不可欠と確信しました。国際的な覇権をめぐる争いの余波や、デジタルエコノミーのグローバル化がベトナム経済にも及んでいることがわかり、国際関係学を学んできた甲斐があったと思いました。

鈴井: 貴重な体験と気づきがありましたね。苦労して手にした調査結果を、ぜひ今後の演習(ゼミ)での研究でさらに発展させてください。

●写真：雄飛館 ラーニングcommons(多様なスペースで学生がともに学びあう空間)



鈴井 清巳教授
SUZUI Kiyomi



難民や貧困問題について学びたいと考え入学。

川内 柚哉さん
KAWAUCHI Yuzuki
外国語学部
国際関係学科3年次生
大阪府・
大阪高等学校出身

「決まった答えのない柔軟さが国際関係学の魅力」と語る。

今井 悠翔さん
IMAI Haruka
外国語学部
国際関係学科3年次生
京都府立
洛西高等学校出身



英語は必要な道具、国際関係の知識は不可欠な力

国際関係の学びを「強さ」に変えるのは「現地での体験」

開発の現場を知るために訪問したケニア

ストレフォード: 伊藤さんは3年次にケニアへ調査旅行に行っているよね。どうしてケニアに？

伊藤: もともと途上国への開発協力に興味があり、できればアフリカ諸国で現地の抱える問題や先進国が行う開発援助がどのような影響を与えているのかを自分の目で見たい、現地の人の話を直接聞きたいと思うようになりました。青年海外協力隊でケニアに赴任した方の経験を聞く機会があって「ケニアに行こう!」と決めました。

体感した、開発支援の難しさ

ストレフォード: 準備が大変だったでしょう。現地ではどんな成果がありましたか？

伊藤: 講義や演習(以下ゼミ)で、途上国の歴史や貧困の現況、政治体制、文化など多様な視点から「途上国の開発問題」についての知識を得、現地調査の準備にかかりましたが、本当に大変でした。現地のNGOに何度も連絡をとり、滞在先の確保や活動内容の予定を立てました。予防接種、危機管理の学習、渡航費の工面など準備するべきことは山ほどありました。先生方をはじめ色々な人にアドバイスやご縁をいただいて実現したケニア渡航でした。

ケニアでは日系NGOの拠点に滞在し、ボランティアをしながら現地の人にインタビューをして開発の現状と課題について多くの知見を得ました。日本人の価値観からよかれと思った支援が現地の社会文化には馴染まない、改善

現地に飛び込んで学び、得られた自信。

のための措置が機能しないことが多くあることも知り、問題の難しさや多面性を痛感しました。

滞在は3週間でしたが、準備のための数ヶ月も含めて貴重な体験でした。直面した想定外の困難や、それに対処することで得た力は、私を強くしてくれました。グローバルに活躍する上で大きな自信にもなっています。これまでの学びを「仕事と結びつけたい」という思いと、現地でみた途上国のインフラ整備の重要性という認識が、進路先を選択するきっかけにもなりました。

英語力も国際関係学の知も実践も大切

ストレフォード: 大学での国際関係の学びと実際の現地体験の両方の重要性を感じたのですね。

伊藤: はい。両方がしっかりと結びつくことが重要だと思います。国際関係というと英語のイメージが強いけれど英語は所詮「道具」。英語ができないと学びも現地体験も深められないので困りますが、英語だけ得意でも意味がない。講義やゼミでの国際関係の学びも重要です。国際関係は複雑で、知っておくべき事実や理論がたくさんあります。情報だけでなく集められますが、それを自分の視点で理解して分析し、考察、発信できるようになるには学問としての国際関係の知識が必要です。でもそれだけでは十分ではなくて、実際に現地で自分の目でみて感じること、現地の人と交流すること、自分に関係のあることとして考えることも不可欠だと思います。

●写真：真理館 スチューデントcommons(学生の主体的な学びを促進する空間)



ストレフォード
パトリック
ウィリアム教授
STREFFORD
PATRICK William



開発を追究した経験から、
海外事業に活発な
ゼネコンを進路に。

内定先 株式会社鴻池組
伊藤 悠希さん
ITO Yuki
外国語学部 国際関係学科4年生
兵庫県立香住高等学校出身



「多様な価値」が衝突する世界。「協調」への模索に必要なのは多角的なものの方 国際関係の関心と学びを将来の選択へ。国際関係学の知識がもたらす力

幅広く学び、視野を広げる

井口: 星山さんはどんなことに関心をもって国際関係学科に入学したの？ 入学後はイメージ通りでした？

星山: 漠然と「海外で仕事ができる力をつけたい」と考えていましたが、当時は英語に苦手意識があり、国際関係学から広がる進路のイメージができていませんでした。

入学してみたら、勉強はとにかくハード(笑)。英語の授業は実践的かつ論理的・批判的思考を養う内容で、一生懸命に学ぶうちに苦手意識もなくなりました。国際関係の勉強は奥深く多領域にわたり、一つの問題に対して政治や経済、社会や文化といった領域からアプローチすることや、理論と現実の両方を踏まえて分析する力がついたと思います。小規模クラスで熱心な学生が多く、よい刺激を得ながら一緒に頑張ることができました。

国際関係学の学びが導いた未来

井口: 具体的にはどんな授業が印象に残っていますか？

星山: やはり海外フィールド・リサーチ(1年次必修科目)です。私は「ボランティア」がテーマのカナダを研修先を選びました。現地での活動実践なども興味深いのですが、それ以上に「なぜカナダではボランティアがうまく社会に定着して継続しているのか？」とか、それを可能にしている「カナダ社会の多様性への寛容さ」など、現地を見ることでより強い興味をもちました。

井口: 演習(以下ゼミ)の授業はどうですか？ ゼミ論文の

国際関係の学びを進路選択に活かす。

テーマはASEANの地域統合なのですね。

星山: 「多様な価値の共存」に関心があります。3年次にタイを訪れ、東南アジア諸国の勢いと文化的多様性に圧倒されました。EUとは異なる独自の地域統合を進めるASEANを見つめ、学びの集大成として研究しています。

就職活動では第1希望の企業の内定を得たのですが、振り返ると就職活動や進路選択もこれまでの国際関係の学びにつながっていました。内定先は「空気に国境はない」や「世界は均一ではない」というコンセプトがあり、私が国際関係学を通して学んできた価値観と一致すると思いました。ASEAN諸国や途上国にも事業展開しており、環境を通じた国際社会への貢献にも積極的。そうした事業に関わることも進路選択の決め手でした。

世界のつながりを見つける力

井口: 最後に、国際関係学の学びが星山さんにとってどんな力になっていると思いますか？

星山: 国際関係学は直接何かの役に立つということではないかもしれないけれど、日本でも世界でも、仕事でもそれ以外でも、色々なことに関わりがあって、国際関係の知識や多角的な視点がなければ、本質的な理解ができないし、自分なりの分析や意見の発信もできないと思います。そういう意味では、国際関係を学んで多角的な視点を身につけたことが一番の力になっていて、それをこれからさらに磨いて、活かしていきたいと思っています。

●写真：サギタリウス館 グローバルcommons(身近に「グローバル」を感じ、学ぶ空間)



グローバル企業で働く。
目標は
「個性を世界で輝かせる人」。

内定先 ダイキン工業株式会社
星山 雅さん
HOSHIYAMA Miyabi
外国語学部 国際関係学科4年次生
京都府立桃山高等学校出身



井口 正彦准教授
IGUCHI Masahiko

Q 他大学の国際系学部との違いを教えてください。

A 社会科学をベースにした「学びの中身」が違います。

多くの国際系学部が高度な「外国語運用能力」の修得を重要視する一方で、京都産業大学国際関係学部では、語学はあくまでツールとして位置づけ、そのツールが活きるのは専門分野としての国際関係学を修得してこそだと考えています。国際関係学部がめざしているのは「グローバル人材」の養成です。そのため、カリキュラムは“超”実践型。社会科学を幅広く学んで国内外でのフィールドリサーチやインターンシップに取り組み、国際社会の問題を自ら発見して解決に向けて主体的に行動できる人を育てます。



What's?

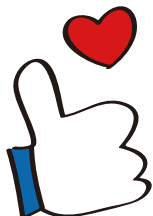
国際関係学部

学べることは？学習環境の特色は？
国際関係学部の魅力を
Q&A形式でご紹介します！

Q 英語が得意ではありませんが大丈夫でしょうか。

A もちろん大丈夫。
基礎から学べるカリキュラムです。

国際関係学部の英語科目は習熟度別に開講し、自分に最適な環境で無理なくステップアップしていただけます。英語でのディスカッションやプレゼンテーションの力も英語力の水準に応じて段階的にアップ。実践の経験を中心に英語を「使う」意識とスキルを養い、世界の人との意思疎通や重要な情報の検索・収集に必須の力を身につけます。



Q 京都産業大学の外国語学部との違いは？

A 英語はあくまで学習ツール。
社会を、世界を学びます。

もちろん国際関係学部でも英語学習は重視していますが、英語はあくまで世界の人とのコミュニケーションや情報収集を円滑にするための“ツール”に過ぎません。何よりも経済や政治、歴史、文化など多様な領域を学習し、複雑な国際関係を読み解く教養と多角的に物事を見ることができる知性を育みます。2年次からは「国際関係・政治」「国際関係・経済」「国際関係・共生」の3コースから関心のあるテーマを掘り下げて学び、深く高度な知識を修得します。

Q 国際関係学部でも海外留学に行けますか？

A 留学をめざすなら国際関係学部。
海外での学びを推奨しています。

アクティブな学びを重視する国際関係学部では、海外での体験も貴重な学習機会。1年次の「海外フィールド・リサーチ」は原則全員が参加するほか、交換留学制度を利用した長期留学も推奨しています。また、海外で、研究や問題解決に取り組む科目である「国際キャリア開発リサーチ」も設けています。

！ 海外フィールド・リサーチの費用は学費込み

大学が「海外フィールド・リサーチ」のプログラム費用を負担します。ただし、海外での保険費用や現地で自身が使用するものなどに関する費用は自己負担となります。

Q 国際関係学部が一番の特色は何ですか？

A 教員の「身近さ」。
懇切丁寧に指導します。

国際関係のテーマはまさに千差万別。ビジネス、環境、観光、安全保障、貿易、格差などの課題を政治、経済、文化といった視点で考えることもでき、地域を切り口にすることもできます。したがって学生の関心や進路目標、また個性を国際関係学の学びにリンクさせるには教員によるサポートが不可欠。少人数制のゼミナールなどを中心に、教員が常に学生の隣で学びを支える環境を用意しています。

CHECK!

「志」を未来へつなぐ。国際関係学部のキャリア支援。

国際的なフィールドで「働く」ことを常に意識し、進路目標を実現するための多彩なサポートを設けています。

意識を高め、国際社会の課題を自分事に。 隔週で実施するニュース解説

●ワークショップ in スチューデントコモンズ

世界を揺るがすニュースの背景等について、国際関係の専門の教員が丁寧に解説するワークショップを昼休みに隔週で開催。ビジネスなどにおいても必須の国際教養を育む機会を設けています。関心ある人は国際関係学部のホームページをチェック！



海外の現場に飛び込み国際感覚を磨く。 1年次末に全員が海外体験

●海外フィールド・リサーチ

7カ国のいずれかに3週間滞在し、それぞれのテーマに沿った実習に参加。企業や行政機関へのヒアリング、地域でのボランティア活動、環境保護の現場見学など実体験を通じてその国の政治・経済・社会・文化・歴史の一端を学び深めていくことを目的としています。

研修先

▽英語圏	▽アジア圏
アメリカ	タイ
カナダ	マレーシア
オーストラリア	ベトナム
ニュージーランド	

国際社会の最前線に触れてビジョンを形成。 第一線で活躍する実務家に学ぶ世界の今

●外部講師による講演

第一線で活躍するビジネスパーソンや外交使節の方々などを授業に招聘。2年次生からの展開科目「外交論」「国際ビジネス論」「国際協力実務論」では、グローバルに活躍する実務家との直接的対話を通じて、学生の進路選択について考える機会を提供します。



懇切丁寧な指導でキャリアに関する不安を解消。 教員によるマンツーマン指導

●学修・進路相談

世界を舞台に活躍したいと願う学生たちに、教員がゼミナールなどを中心にきめ細かくサポート。希望する進路の実現のために学び取り組むべきことを指導するなど、学修・進路のいずれの相談にも丁寧に対応します。



全学の 取り組み

1年次からのキャリア教育

充実した「キャリア形成支援プログラム」に1年次から取り組むのが京都産業大学のスタイル。企業と連携した多彩なプロジェクトなどに挑戦し、4年間で計画的な成長をめざします。



充実した進路・就職支援

産業界との強力なパイプを活かし、多彩な情報提供とともに、企業と学生とのマッチング支援を実施。「就職に強い」と定評ある京都産業大学ならではの就職サポートにご期待ください。

国際感覚や問題解決力を活かして



卒業生たちは多様なフィールドへ

進路実績 抜粋 (外国語学部国際関係学科)

愛知製鋼(株)
(株)伊藤園
江崎グリコ(株)
エスベック(株)
京セラ(株)
(株)京都ホテル
(株)近鉄エクスプレス
グローリー(株)
(株)鴻池組
鴻池運輸(株)

(株)サイバーエージェント
サカタイクス(株)
三協立山(株)
JKホールディングス(株)
(株)JT B
(株)島津製作所
スズキ(株)
全日本空輸(株)
ソフトバンク(株)
ダイキン工業(株)

大日本住友製薬(株)
(株)大和証券グループ
大和ハウス工業(株)
タカラスタンダード(株)
タキイ種苗(株)
(株)長府製作所
DMG森精機(株)
T O W A (株)
東リ(株)
(株)日新

日本航空(株)
日本精工(株)
日本通運(株)
日本電産(株)
任天堂(株)
(株)ノーリツ
野村証券(株)
日置電機(株)
東日本旅客鉄道(株)
(株)フジキン

(株)不二越
(株)みずほフィナンシャルグループ
(株)三井住友銀行
三井住友建設(株)
(株)三菱UFJ銀行
ヤフー(株)
山九(株)
雪印メグミルク(株)
(株)レナウン
市役所 他

大学院
アイスランド大学大学院(アイスランド)
ヘルシンキ大学大学院(フィンランド)
マンチェスター大学大学院(イギリス)
レスター大学大学院(イギリス)
東京大学大学院
神戸大学大学院 他

